

上海日本人学校中学部2年生宿泊学習における企業訪問の実践

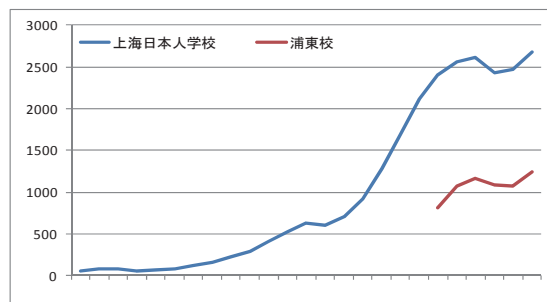
前上海日本人学校浦東校中学部 教諭

佐賀県多久市立西溪小中学校 教諭 古賀義彦

キーワード：総合的な学習の時間、進路学習、生き方、校外学習、表現力の育成

1. はじめに

上海日本人学校は、昭和62年（1987年）に設立され、当初は小・中学生を合わせて61名の小さな学校であった。その後中国の改革開放政策が推進されたことで、日本企業の進出が進み、上海で生活する日本人も急速に増加した。その結果、虹橋（ホンチャオ）区にある上海日本人学校の児童生徒数が校舎の許容量を超えるようになったために、平成18年、第2の上海日本人学校として上海市東部の浦東（プードン）新区に浦東校が建設された。虹橋校が小学生児童のみの学校なのに対して、浦東校は小学生



上海日本人学校の児童生徒数の推移

と中学生の児童生徒が学ぶ学校であり、上海の中で唯一、中学生が日本の教育を受けることのできる学校である。平成25年4月22日現在の児童生徒数は、小学部747名、中学部765名、計1,512名である。

さて、中学部2年生では、平成23年度から上海近郊にある日系企業訪問を軸とした2泊3日の宿泊学習を実施している。ここでは、平成25年度に実施した宿泊学習に関わる取り組みについて報告する。

2. 中学部2年生宿泊学習の意義

現在、本校中学部では学年ごとに宿泊を伴う校外学習を4月下旬に実施している。具体的には、中学部1年生の虹橋・浦東両校を卒業した生徒と、日本各地から本校に入学することになった生徒が互いに仲間意識を高められるように「なかまづくり」を主題とした2泊3日の宿泊学習と、中学部3年生の一般的に各中学校が実施している伝統的な2泊3日のいわゆる修学旅行である。中学部2年生は平成22年まで「平和学習」を主題に南京への2泊3日の宿泊学習を実施していたが、平成23年度より「進路学習」を主題に無錫・蘇州への2泊3日の宿泊学習に変更した。

主な理由は2点ある。1点目は、南京への平和学習では当然虐殺記念館への入館を伴うことになり、中学生にとっては衝撃的な学習となってしまふということである。賛否両論あるものの、中学部2年生の宿泊学習の見直しを検討するきっかけとなった。2点目は、それまで3学期の総合的な学習の時間に実践されていた「地域マイスターの話聞く会」※1だけでは、中学部2年生で学習する「職業に関する学習」としては不十分であるという点である。そこで、中学部2年生の宿泊学習では企業訪問を軸に見直すことで、職業に関する学習を充実させ年間を通して総合的な学習の時間をより充実した一貫性のあるものにするようになった。

本校生徒は、地域の実情により生徒の自由な外出が少なく、活動範囲もごく限られているため、日本にも増して職業人と触れる機会が少ない。しかし、上海市を中心に江蘇省、浙江省を含む華東地域には、3万社近くも日系企業（平成21年）が進出しているといわれ、多くの日本人がこの上海とその近郊で働いている。この地の利を生かし、この上海近郊に進出している企業を直接訪問したり、そこで働く日本人から話を聞いたりすることは、生徒に働く意義を考えさせ、将来の進路を考える一助になるはずである。またひいては、自分たちがここに住むことになった所以を肌で理解することにもつながるのではないかと考えた。

3. 職場訪問実践の概要

(1) 訪問企業の選定

宿泊学習の実施が4月であるということ、場所は海外であるということなどの理由から、職員自ら訪問企業を開拓したり、保護者に協力を求めて訪問企業を選定したりすることができない。そこで、訪問企業を選定するにあたっては、担当旅行社が提案した企業の中から選定するという手順で作業を進めている。つまり、担当旅行社に強く頼ることで実施できているというのが実情である。平成25年度は、これまでは第2次産業の工場見学が中心だったのを改め、より幅広く職業について学んで欲しいという願いから第3次産業分野の企業への打診もお願いした。その結果、今回の宿泊学習で協力していただいた企業は次の10企業である。順不同。

○ホテルでの講話Ⅰ 1日目夜 全体研修

①日本航空公司（日本航空）

○ホテルでの講話Ⅱ 2日目夜 全体研修

②摩斯漢堡餐饮管理有限公司（モスバーガー）

○企業訪問Ⅰ※2 2日目朝 全体研修

③松下冷機有限公司（パナソニック）

○企業訪問Ⅱ※3 3日目朝 コース別研修

④旭化成電子材料有限公司（旭化成） ⑤池田泉州銀行蘇州駐在員事務所（池田泉州銀行）

⑥泉屋百貨有限公司（泉屋） ⑦欧姆龍精密電子有限公司（オムロン）

⑧佳能有限公司（キャノン） ⑨東京海上日動火災有限公司（東京海上日動火災）

⑩万宝至馬達有限公司（マブチモーター）

いずれも日本や地域を代表する企業で、日本にはこれだけのそうそうたる企業に協力していただくことは難しい。いかにこの地域に多くの企業が進出しているのかが理解できる。受け入れ先の企業は、日本の企業のように中学生などを受け入れるための工場見学の施設・環境が整備されていたり、担当者が決められていたりするわけではない。例えば、23年度に訪問した上海養樂多貿易有限公司（ヤクルト）では、従業員120人の中に工場責任者がひとりだけ日本人という中での受け入れであった。中学生を受け入れることで相当の負担となることが容易に予想できる中、中国に住む日本の中学生のためにと快く引き受けていただいたことは非常にありがたかった。

(2) 学習の経過

	生徒の活動	活動形態	時配
1	事前学習オリエンテーション	学年全体で一斉	1
2	事前学習	コース別で班単位	3
3	事前学習発表会	各学級	1
4	宿泊学習（2泊3日）	—	—
5	事後学習説明会	学年全体で一斉	1
6	事後学習	コース別で班単位	2
7	事後学習発表会	学年全体でブースごと	2

(3) 事前学習

企業訪問をひかえ、生徒に訪問する企業についての予備知識をとらえさせるために事前学習を行った。事前に調べる企業は当日生徒が訪問する企業とし、コース別研修の7企業と松下冷機有限公司を合わせた8企業とした。各クラスには生活班が8つあるため、各班がいずれかの企業について調べることにした。ただし、松下冷機有限公司は全体研修で訪問する企業なので、事前学習で松下冷機有限公司を担当する班はコース別研修時には7企業

のいずれかを訪問することとした。

今回、事前学習と事後学習の成果は表現力の向上を図って、ポスターセッション方式で発表会を実施することとした。事前学習では3枚のA4パネルを作成し、学級の中で発表会を行う。事後学習では2枚を追加し、最終的に計5枚のA4パネルを使って学級の枠を超えて発表することにした。事前学習の3枚のパネルのテーマはそれぞれ「聞き手を惹き付けるようなタイトルパネル」「企業の紹介をするパネルⅠ」「企業の紹介をするパネルⅡ」である。設備不足のため学校のPCを利用することはできないので、生徒は各自家庭のPCを利用してインターネットから企業など情報を集め、整理してシナリオ作成と3枚のパネル作成に励んだ。その際注意することは、シナリオには聞き手が楽しいと思えるような、聞きたいと思うような内容を盛り込むこと。パネルはあくまで発表を助けるためのツールであり発表のすべてではないので、多くの文字や図を書き込まないこととした。

(4) 企業訪問の実際

①企業訪問Ⅰ

宿泊学習2日目の午前中、学年全7クラスで無錫市にある松下冷機有限公司を訪問した。ここでは広大な敷地で中国国内、日本、ヨーロッパ向けの冷蔵庫を生産している。担当者Aさんから企業概要の説明を聴き、工場内を3つのグループに分かれて見学した。工場内では多くの中国人が働いていた。工場内の安全や効率良く質の高い製品の生産を啓蒙するもの、従業員のシフト表、各従業員の行動目標などの掲示物が特に印象的で、日本国内の工場と類似していることがよく分かった。また、冷蔵庫内の温度を一定に保つために、外枠と内枠の隙間に充填しているウレタンの発泡実験なども見ることができた。見学の後には質問タイムが設けられ、最後には担当者Aさんのこれまでの生い立ちや今の仕事に対する思いなども語っていただいた。

この工場では中学生はもちろん、外部からこのような研修団を迎えたことは初めてということであった。今回全体研修の会場となった場所は、職員用の研修室として使われる部屋で、生徒が利用した椅子は当日特別に他から借りてきたということである。ウレタンの発泡実験もそうであるが、この時のために多くの時間と経費と労力を費やして受け入れていただいた。

②企業訪問Ⅱ

今回の宿泊学習のメイン研修である。宿泊学習3日目の午前中、7つの企業（コース）に分かれて研修をおこなった。研修の舞台となったのは蘇州市にある日系企業である。訪問先は宿泊ホテルから距離も方位も様々で、事前の下見により宿泊ホテルから近いところで20分、遠いところは1時間の移動時間を想定して訪問先と研修内容などについて打ち合わせをしてきた。

私が引率した企業は、日本では関西にスーパーを展開する泉屋百貨有限公司で、2年ほど前にオープンしたばかりの蘇州市ではじめての日系百貨店である。説明会場に入ると、テーブルの上には企業のパフレットと織り込み広告、お茶、そして企業のロゴの入ったUSBメモリが準備されていた。ここでは、担当者Bさんから企業概要の説明を聴き、店舗内を3つのグループに分かれて見学をした。見学スタート時は、間もなく開店という時間帯で日本の百貨店と同じように、従業員が姿勢よく客の来店を待っている姿を目にすることができた。見学が終わると、担当者Cさんからご自身のことについて語っていただくことができた。「このような話はしたことがないので中学生が興味を持って聞いてくれるのかが心配なのだけど…」との前置きから始まり、「自分にも中学生の子どもがいること」「親として我が子を思う気持ち」「仕事をしていて一番嬉しいことはお客様から『ありがとう』と言われること」などについて話を聞くことができた。

当日コース別訪問をした他の6企業においても同様に生徒にとって実りある研修となった。今回協力していただいた延べ10企業には、今回の趣旨を理解していただいて、この時のために多くの時間と経費と労力を費やして受け入れていただいたことに感謝したい。

(5) 事後学習

宿泊学習を終え、企業訪問のまとめとして事後学習に取り組んだ。事後学習では残された2枚のパネルを完成させ、発表のための3分間のシナリオを考えることである。2枚のパネルは、企業訪問を終えて学んだことや感じたこと、思ったことを伝えるために利用するものであるが、事前学習と同じく決して多くを書き込まないことを意識して作成させた。生徒は実際に現地で見たり聞いたりした多くのことの中から、精選して何をいかに3分間で伝えるかを班で協力しながら意欲的に考えていた。

事後学習発表会は、7クラスの教室とその廊下、技術室、第1理科室、第2理科室を会場に発表ブースを28ヶ所設けて実施した。ブースごとにひと班がひと班に対して発表し、聞き手はローテーションで異なる企業の発表を聞き、発表班は同じ発表を5回繰り返す。そして5回終わると、聞き手と発表班がそっくり交代して同じように5回繰り返すというものである。7回繰り返せばす



事後学習発表会の様子

べての企業に関する発表を聞くことにはなるが、時間的な制約があるために叶わなかった。

生徒は同じ発表を5回繰り返すのであるが、1分間の準備時間中に多くの班でその都度班内で反省し「声が小さい」「顔をあげて発表しよう」「こう言えばもっと分かりやすい」「こんな動きを入れたらどうか」などの改善策が話し合われていた。事前学習と企業訪問で学んだり気づいたりしたことを、少しでも分かりやすくきちんとおかつ楽しく伝えるように工夫しようとする姿があった。



5枚のパネルを利用した掲示物

4. まとめ

今回の実践を次の2点から評価する。1点目は今回で3度目になる職場訪問を軸とした宿泊学習の評価である。日本の学校の生徒がそうであるように、本校の生徒も親がどのような仕事をしているのか、どのような思いで仕事をしているのかなどを知っている生徒は多くはない。今回の企業訪問を通して、同じ日本人がこの中国で頑張っている姿や仕事への思い、さらにはそのような方々の人生観について見聞きしたことで、生徒は多くのことを学んだに違いない。日本の学校で当たり前に行えることが、上海という特殊な地で実践できていることは喜ばしいことであり、今後も是非続けてほしい実践である。その際、日本以上に多くの方々の好意によってこの実践が成り立っていることを我々は忘れてはならない。

2点目は今回実践したポスターセッションによる表現力の育成の評価である。発表させるにあたって、基本的な発表の約束とともに、5枚のパネルにはシナリオに沿った文字や図を最小限しか書かないこと、聞き手が楽しいと思えるようなまたは興味が湧くような工夫を入れること、事前学習発表会で1度体験させてみること、事後学習発表会では同じ内容を5度繰り返すことなどの約束や仕掛けを工夫した。それにより生徒は、これまで実施していた新聞づくりよりも楽しく精力的に活発に話し合い活動していた。また、先に述べたように発表時も意欲的により良い発表を目指して工夫する姿が見られた。今後も機会があれば、楽しく分かりやすく情報を伝えるひとつの手段として取り入れていきたい手法である。

注

- ※1 上海で活躍する様々なジャンルの職業人に来校していただき、希望する数名の方から講話を聞く取り組み。今年度は2学期末に実施した。
- ※2 上海近郊の無錫市内の工業団地内に立地している企業。
- ※3 上海に隣接する無錫市内に立地している企業。それぞれの企業は市内に散在している。